

GYOHEI



2011
FEBRUARY

特集 >>>

東京近隣の質屋さんへ行ってみました②

群馬県 / 埼玉県 / 神奈川県

No.730
【毎月1回1日発行】



質屋業報

昭和36年12月15日 第三種郵便物認可
2011年2月1日発行 通巻 第730号

が、それで良いのか」と脅す。

そこへ家老が現れて、「御使僧お帰り下され」と云う。

ここは大人しく、御使僧として引き取って貰うのが得策と考えたのである。

宗俊は、「それは良い料簡だ」と云って、花道にかかる。

そこで振り返って、松江候と家来達に、「馬鹿め、ワハハハハ」と哄笑する。

質屋側は、池ノ端の宗俊宅を訪ねる。二人が御使僧派遣の礼を述べると、宗俊は「御使僧と云うのは、俺なのさ。つまり、あれはカタリだよ」と云う。

二人は驚いて、取り乱す。

「それでは、私達はカタリの片棒をかついだことになるのではありませんか」

「心配するなよ。俺の千両三寸で、あんた方には迷惑はかけないよ」

二人は早々に辞去する。

二人は外に出ても、未だに取り乱している。

宗俊が「未だそんな所にいるのか」と声をかけると、おまきは気を取り直し、背筋を伸ばし、大店の主人らしい態度に戻り、堂々と花道を去って行く。

宗俊はそれを見送って「商人は気が小さくていけねえよ」と云う。

宗俊は、妻と妾を呼び、百両ずつ与え

「俺がいなくなったら、この金で暮らせよ」と云う。

そこへ、輩下の片岡直次郎（菊五郎）が逃げ込んで来て、事が露見したから高飛びしよう」と云う。

宗俊は、悪事は

この辺でお縄を頂戴」と云い、直次郎も納得する。

二人で酒を飲み始めると、

宗俊は、「まあ、急くなよ」と制

通し狂言だから筋も分かるし、明治期の芝居だから、セリフも分かり易い。

色々、見せ場があるが、四幕目の遊女三千歳（時蔵）と直次郎（菊五郎）の別れの場面が、歌舞伎の芸が堪能できて素晴らしく美しい。

最後に捕手に追われて、垣道を踏み破って雪の中を逃走するシーンは引き締まって迫力もある。

芝居を通して、江戸の情緒と小粋さを味わえて、良い気分になります。

やはり、歌舞伎は、他の演劇や映画では味わえない、独特の美しさと楽しみがあるのです。

（加藤子四夫）

質店・ブランドショップの企画・設計・施工

お店の デザイン・設計・施工。陳列器具・照明・看板・サイン・床材・クロス・空調・ガラスなど
どんな事でもご相談下さい。早く、ローコストにてご提案致します。

セコム・各種照明器具及材料メーカー代理店
フリーダイヤル

0120-563-287

SHOP DESIGN & CONSTRUCTION

活気のある店づくりのご提案。



株式会社 ジェイ エス デザイン

商業施設の企画・設計・施工
東京都知事許可(般-21)第111937号

〒135-0011 東京都江東区扇橋2-5-6 UM-201
TEL 03-5633-9011
FAX 03-3648-7511

jsdesign-um201@nifty.com
http://homepage2.nifty.com/jsdesign/